

慶應義塾大学 文学部

日本史学専攻

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

日本史学専攻では、卒業時に学生が身につけるべき能力として下記のことを定め、学則に従って卒業要件を満たし、卒業論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、学士（史学）の学位を与える。

1. 歴史学を中心として広く様々な分野に即して学問の方法を学びつつ、特に日本史学の分野において、通時代的な歴史像の把握の下に研究領域全般に関する知識を修得し、古文書などの史料から歴史情報を引き出すための史料批判・読解などの基礎的能力を具えるとともに、引き出した歴史情報を分析して新たな史実を実証的に掘り起こし、その成果を論理的に構成して発表することができる。
2. 日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする日本語の卒業論文を執筆し、さらに卒業論文のテーマに関連する領域については包括的な専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる。
3. 生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめて発表する基礎的な能力を身につけるとともに、日本の歴史に対する理解を通じて養った、人間の営みと社会の動きに対する一定の視野と洞察力をあわせもつことで、基礎的なリテラシーを具えた社会人、研究者、教育者として、社会に対する独自の貢献ができる。

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 史料の取り扱いが適切であり、方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。